

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3090100177		
法人名	株式会社介護ステーションオアシス		
事業所名(ユニット名)	グループホームオアシスⅡ		
所在地	和歌山県和歌山市つつじヶ丘2丁目6-1		
自己評価作成日	平成25年3月25日	評価結果市町村受理日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/index.php?act=on_kouhyou_det.ai.2010.022.ki-hon-tru&amp;ki_gvosyoCd=3090100177-00&amp;PrEfCd=30&amp;VersiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/index.php?act=on_kouhyou_det.ai.2010.022.ki-hon-tru&amp;ki_gvosyoCd=3090100177-00&amp;PrEfCd=30&amp;VersiOnCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年4月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の希望があれば入所からターミナルまでの一貫したサービスを行っている</li> <li>・利用者さんに寄り添い家庭的な雰囲気の中で利用者さんは職員に甘える事ができ、安心して暮らせている</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>緑多い住宅地の一角にオアシスグループの事業所が立ち並んでおり連携して高齢者介護に臨んでいる。職員間の信頼関係も良好で介護に対するモチベーションも高い。また、終末期に対して常に対応できる体制を整えて高い介護力を維持している等、利用者や家族に安心感を与えている。レクリエーションとして人気のカラオケでは一人ひとりがマイクを持って歌い、いきいきとした表情を見せていたり、職員相手に将棋を指す方もおられる等、自由な雰囲気の中、個別対応が可能な行き届いた支援がなされている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全かつ質の高い介護を目指し職員に介護職としての自覚を持ってもらう為に毎朝理念を言い毎月の目標を定めて月に1回自己評価を行っている	利用者の一人一人の尊厳と安全で質の高い介護を提供する旨の事業所理念を持っている。さらに日常的でわかりやすい短い言葉を月毎に目標として定め、職員全員で共有し総括している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の人と気軽に挨拶を行う。又、年1回秋祭りを行い近隣との交流を図っている	散歩で出会った近隣の住人とは気軽に挨拶している。また年1回オアシスグループで秋祭りを盛大に開催しており地域の住人の楽しみの一つになりつつあるが、日常的な近所づきあいには至っていない。	事業所も共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担う等、積極的な関わりが望まれる。例えば災害時には備蓄を備えた避難所としての機能を果たす等も考えられる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のケアマネージャーが常時相談を受け付けており、介護の日には気軽に相談できるように案内を掲示し代表者が講演を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や自治会、包括の職員に参加してもらい報告を行っているが出席者からの意見はあまり聞かれない	2ヶ月に1回、家族、包括支援センター職員、自治会役員等の参加を得て開催されている。関係者が気軽に意見を出せるよう雰囲気作りに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導を仰いだりわからない事等を尋ねたりと連携を持つよう心掛けている	介護保険や生活保護支援等について市役所とは関わりを持って連携が取れるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合を除き行動を制限するような行為を行っておらず、色々工夫し対応している。又、月1回身体拘束についての研修を行っている	毎月ミーティング後に研修会を持ち身体拘束等について学んでいる。特にスピーチロックについては職員間で常にチェックし合うなど留意している。また玄関の施錠は夜間のみで、利用者の特徴や傾向をつかんで対応するなど、身体拘束のないケアに向けて努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待に対して強い関心を持ち何時も注意し虐待等の行為に対して許さない強い姿勢をもっている。又、その考えは全職員に浸透している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人には後見人制度の利用を行っている。人権推進擁護委員会を中心として権利擁護に関する知識や活用についての研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解をしてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は月に1度以上は来所される。その都度意見や要望を伺い思いをくみ取るように心掛けている	毎月の支払いは原則持参ということで月1回は必ず来所されるため、家族の意見要望をきめ細かく聞き取り運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議等を行い職員の意見を聞き、又、代表者は常に事業所を訪れ職員の提案等を活かしてくれている	ミーティング時に主任が職員の提案や要望等を聞き取り、月1度のオアシスグループ主任会議において本社に伝えるようにしている。社長も頻りに各事業所を訪れては職員に直接話しかけて要望等を汲み取っており運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等を取得するよう勧め資格に対して給与に反映するようなシステムになっている。又、職員をよく見ており適材を適所に配置し職員が向上心を持って働けるように工夫されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のスキルアップを考え積極的に研修等に参加させてくれる。又、現場にも入り指導を行い職員の介護技術の向上に力を入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会へ参加しているが特に同業者との積極的な交流はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前からケアマネージャーや職員が関わりを持ちできるだけ本人の声を聞くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に話を聞き家族の思いを受け止め信頼を得られる様な支援を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の訴え、家族の相談等から本人、家族にとって1番必要な支援を決めていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできる事はやってもらい一緒にゆっくりと楽しくというGH理念のもとで共に楽しめるような雰囲気作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い家族の思いに添いながら支援をさせてもらう事を伝えできるだけ面会して頂けるようお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問があれば共に喜び再度の来所をお願いしている	入居年数の長い利用者が多く、落ち着いてほっと出来るこのホームでの馴染みの関係が深まっている。その上でさらに、馴染みの知人等の来訪を職員共々歓迎し、恒例になっている墓参等の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも座る場所を決めておりその場所にその人がいないと心配される		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等されたら度々お見舞いに行き経過の把握に努め家族との話し合いを大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回職員全員で一人づつについて話し合いその人の希望や思いについて検討しできる限り実現できるようにしている	毎月ミーティングにおいて職員全員で利用者それぞれの検討会を行っている。日々細やかな観察をして利用者一人ひとりの思いや状態を職員が共有し個別対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや面会の度に家族と雑談をしたりしながらこれまでの暮らし方や生活歴を把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる力、わかる力を正しく評価する為に職員全体が利用者を総合的に見つめる目を養う努力をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には来所の度に状態の説明を行い介護計画書を見てもらいながら話を聞き、月1回のミーティング時には職員からの意見を聞いている	家族とは来所された折り等に日々の報告を基に介護計画について話し合い、また入退院時は病院にてサービス担当者会議を開き関係者が集まり利用者にとってよりよく暮らし続けるためのアイデアを出し合いながら計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の利用者に対する気づきやそれに基づくケアへの実践は行われているが実践の記録には全て記入されていない事もあるので、より詳細な記入の必要がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り個人のニーズに答えられるように家族や本人の状態等を考え支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの度々の慰問や消防局の防火訓練、地域の幼稚園との交流等を心掛けているが地域自治会との協力はあまり得られない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を聞き適切な医療が受けられるように助言し支援している	本人や家族が希望する病院や以前からのかかりつけ医を大切にしている。事業所の協力医は週2回の往診、また何か気になることがあれば気軽に往診してくれるのとグループ内に看護師が数名常駐しており、安心して医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ施設内に訪問看護がありすばやく対応してくれる。又、1日に何度も見回りに来てくれ適切な助言をしてくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院との連携は密に行いケアワーカーとの連携もとれている。又、入院されると度々お見舞いに行き情報をもらい、かかりつけ医にも相談を行い早期の退院ができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の事も話し合っている。又、状態が変化した時はその度話し合い家族が納得できる対応をしている	既に終末期ケアを経験しており、その体制は常に整えている。また、入所時に重度化や終末期の説明を行っている。変化が生じればその都度話し合い、共有を図るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行っていないが代表者は看護師であり職員は個々に指導されている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は行っているが災害に対する訓練は行っていない。又、地域との連携も少なくともっとお互い協力し合えるような関係を作りたい	運営推進会議の参加者に消防署に勤務されている方がおられ災害対策についてのアイデア等いただいている。また各居室プレートに独歩、車椅子等のマークを貼り、避難時の対応がとれるよう工夫している。スプリンクラーも設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼で介護理念を頭に入れて仕事を始める。プライバシーは入浴、排泄、居室におられる時等特に気を付けている	あらたまった敬語を使うわけではないが、丁寧な言葉遣いをするよう職員同士で注意合っている。またトイレ誘導時、入浴時に誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけにならないよう特に気を付けて介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞きながらできるだけ本人の希望に添うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人その日の体調、機嫌等をみながらその日の対応を決めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染めは職員が行っており毎日の服装は本人が決められている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いは喜んでしてくれる。又、食べたい物を尋ね好みの物を作ったり、一緒に献立を考えたりし食事が楽しみになるようにしている	普通の家庭で作るような献立で、品数を多くし出来るだけ沢山の野菜を彩りよく使用することで栄養のバランスを取っている。時にはお好み焼きやたこ焼きなどをみんなで囲んだり、外食を楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い少ない時は別の方法を考え、それでも駄目な時は医師や看護師に相談する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは職員が歯ブラシ・口腔用ティッシュ等できれいにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	様子を観察し排泄のパターンをつかむようにしている	おむつやリハビリパンツ、パット使用の方等があるが、排泄表を作りパターンをつかんでトイレ誘導をしている。また、入浴前にもトイレ誘導を行う等、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気を付け朝はヨーグルト等を食べてもらい水分の摂取にも気を配っている。又、排泄表を作り適切な排便があるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調に合わせて本人の希望を確認しタイミングを見計らって入浴してもらっている	月曜日のみレクリエーションをゆっくり楽しむため入浴していないが、そのほかの日は入浴が可能である。毎日1時30分から入浴時間となっていて原則週2～3回入っている。排泄で失敗したような時や希望があれば、入浴時間にとらわれず午前でも入浴することが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて休息の時間を考えよいリズムが作れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬に対する目的を理解しており経過の観察もできている。又、看護師等にも報告できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やお誕生日会、カラオケ、外食、ドライブ、買い物、慰問等気晴らしを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望通りの外出は出来ないが、希望があれば買い物、選挙、墓参り等家族と相談しながら支援している	通常は近隣の散歩や近くに買い物に出る程度であるが、墓参りや選挙、家族との外出等も行けるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はもってもらわない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば電話をかけたり、かけてきてもらったりしている。今手紙を書く人はいません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいいりびングで自分の座る場所があり温度や光に気を付け居心地の良いように工夫している。又、季節の花や飾りを行い落ち着いた雰囲気作りをしている	圧迫感の無い高い天井や、明るく見通しの良いリビング、壁には行事の写真や絵が飾られている。窓からは新緑を臨むことができ季節感にあふれており、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる居室があり皆と過ごせるリビングもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日の写真飾ったり季節を感じられるレイアウトを行ったりして落ち着いたよう工夫しているが馴染みの物や自分の物の持ち込みをしている人は少ない	居室は動きやすいようにきちんと片づいてはいるものの、持ち込みの家具や部屋を飾る品物も少なく殺風景な部屋も多いように見受けられる。	家族の協力が得られない場合でも利用者がほっと出来る自分だけの居室になるよう、行事や記念日の写真、似顔絵、手作りの飾りなどを使い工夫されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には手すりをつけ歩きやすいように工夫している		